

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號六第 卷三十五第

月二十年六十和昭

## 論 叢

支那の二五減租問題……………

經濟學博士 八木芳之助

生産の理論の一節……………

文學博士 高田保馬

ナチス勞働時間保護の原理……………

經濟學士 中川與之助

獨占的競争企業とその規模……………

經濟學士 大塚一朝

普通銀行の金融機構に於ける機能とその統制……………

經濟學博士 小島昌太郎

## 時 論

長期總力體制の確立と「いへ」の論理……………

經濟學博士 石川興二

## 研 究

愛知縣毛織物工業における金融……………

經濟學士 田 杉 競

テニルゴの精神進歩の理論……………

經濟學士 出口 勇 藏

## 說 苑

支那の工業合作運動について……………

經濟學士 菊田 太郎

## 附 錄

外國雜誌論題

本誌第五十三卷總目錄

## 普通銀行の金融機構に於ける機能とその統制

小島 昌太郎

私は、曩に、戰時資金の性格を説明して、金融統制の準則と方式とを論じ、各種金融機關及び特殊銀行に於ける統制を説明した<sup>1)</sup>。それに繼いで、こゝに普通銀行特にその大銀行の金融統制を述べんとするのであるが、紙面の都合により、本號に於ては、主として、普通銀行團を構成する所の大銀行の金融機構に於ける地位と機能とを述べ、次の機會に於て、その統制を論ずることとする。

普通銀行に對する金融統制は、二つのものを區別しなければならぬ。これを今日の全國金融協議會の構造に於て言へば、その一は普通銀行團を組織する大銀行に對するものであり、その二は、全國地方銀行協會所屬の銀行に對するものである。こゝに論ずる所は、普通銀行たる性格に於ける限りに於ては後者たる地方銀行も當然包含せらるゝ所であるけれども、主として、普通銀行團を構成する所の大銀行に關するものである。

これらの大銀行に對する金融統制も、その準則と方式とに於ては、前に述べたる所に異るべきではない。併しながら、均しく普通銀行といつても、普通銀行團を構成する所の大銀行と、全國地方銀行協會を構成する所の地方銀行とは、單に金融機關として、その規模に格段の差異があり、且つ金融市場に占むるその地位がヨリ重大なものであるといふことだけではなく、その金融機關としての性格に於ても相違する所がある。従つて、普通銀行團を

1) 本誌、第五十三卷、第四號及五號

構成する所の大銀行に對しては、その統制は、自ら、他の金融機關に對するものと、多少異なる所がなければならぬ。普通銀行團に屬する所の普通銀行は、第一、三井、三菱、安田、住友、三和、第百、名古屋、野村、神戸の十行であるが、これらは、いづれも全國有數の大銀行であつて、その業務實績は、我が國に於ける二百行に達する普通銀行の全國的總額の過半を占むる所である。昭和十六年九月末に於ける、全國普通銀行の勘定に對して左の如き比率を占めて居る。以て、これらの銀行の規模の大にして、その金融市場に占むる地位の重きことが察せられる。

昭和十六年九月末	全國普通銀行勘定	十大銀行勘定 (單位千円)	割合
定期預金	一五、三二五、五六八	九、六六三、六五二	〇・六三
當座預金	三、九九九、八一三	二、四八〇、二六四	〇・六二
預金合計	三四、一一三、〇八八	一七、一八〇、五八四	〇・五〇
手形貸付	一〇、三七一、八九六	七、九三一、三四九	〇・七六
當座貸越	一、七九三、六八二	一、二二四、一六一	〇・六八
割引手形	三、六四七、三六三	八二四、六七九	〇・二三
貸付合計	一九、〇二七、〇二二	一〇、一四〇、六七四	〇・五三
有價證券	一八、八四九、六六二	六、七四二、八〇〇	〇・三六
現金預ヶ金合計	二、〇六二、九六一	九一九、一三〇	〇・四五

更に、これら大銀行は、一般個人及び會社などの銀行であり、金融機關であるばかりではなく、これら大銀行以外の——政府系金融機關とは全く別系統であり、組合系の金融機關とも聯絡は少いけれども——すべての銀行及び金融機關に對して、銀行たり、金融機關たるの地位を占めて居るのである。この點に於て、これら大銀行は、金融機關として、特殊の性格をもつこととなるのである。

すなはち、信託會社、生命保險會社、證券會社、ビルブローカー、無盡會社などは、これらの大銀行に對して、一般個人や事業會社と同様に、預金貸出の關係を有するは言ふまでもなく、地方銀行も同様の關係にありて、これらを謂はゆる親銀行となすもの少くはなく、また貯蓄銀行は、少くとも預金と取立とに於て、親銀行的關係を結び、産業組合、商業組合、工業組合なども、自己の金融機關として、これらの大銀行と聯絡をもつものが少くはない。均しく金融機關といつても、これらの大銀行が、他の金融機關と、その性格を異にする所がある。

次に、これらの大銀行は、金融機關として右の如き發達をなし、右の如き性格をもつに至りたるがために、それらは、各自に、相互的に並立状態を保つこととなり、資金的には各々獨立の地位を保つことを以て矜持となし、この事實の上にその社會的信認を繋いで居るのである。そして、後に述ぶる所の資金の創作的造出は、この社會的信認に基礎を置くものであり、且つこの事實を維持するためには、これらの銀行相互の間には、預金貸出の關係をもつことは出来ない事情になつて居る。もとより、これらの銀行相互の間には、資金の收支について、手形の交換の關係に於て、特に密接不離な聯絡が成立して居るのであるけれども、——そして、それが、資金の創作的造出の機構をなして居るのではあるが——預金をなし貸付割引を受けるといふやうな關係は全くない。もし、その中の一つが、他のものに對して、預金をなすか貸付割引を受けるといふやうなことがあるならば、前者は後者よりも、銀行としての資格に劣るものであると考へられ、その金融機關としての社會的信認を失墜することとなる。その結果としては、預金の離散を惹き起し、その上に發展的に築かれたる信用的資金を消失せしむることとなる。

これが、これらの大銀行が發達の結果として、今日に於て保有する所の金融機關としての特異の性格である。併し、このことを以て、これらの大銀行が、同業連帶一體的に金融上の機能を發揮するに協力することが、自己の矜持を傷くるものと考へるならば、それは大なる誤解である。これらの大銀行が、相互に資金的に獨立の立場にあるといふことは、一つの銀行が他の銀行に預金をなし、または貸付けを受くることゝは兩立しないものであるけれども、シンディケートまたは共同融資の形式に於て、横の聯絡による資金の融通をなすことは、益々その本來の機能を發揮する所以である。従つて、今日の普通銀行團が統制團體となるにしても、その自治的統制に於て、資金の必要あるものが、その餘裕あるものより融通を受けるといふ關係に於ての、横の聯絡による資金の融通は出來ないけれども、小を集めて大となすの意味に於て、または危険分散の意味に於て、シンディケートまたは共同融資といふ組織をとることは、これらの銀行の性格に適應する所の横の聯絡の形式である。

すなはち、これらの銀行の中の或るもの、例へば甲銀行が、その取引先たる國防産業の或會社より資金の申込を受けたときに、自己の一手を以てこれを供給し得ざる場合には、甲銀行が、他の銀行、例へば乙銀行よりこれを借り受け、前者の全責任に於て、これをその事業會社に融資するといふやうな、恰も保險事業に於ける再保險の關係に類似する所の、資金的横の聯絡は、これらの大銀行を對する資金統制として、これを行ふことは困難であつて、むしろ、かゝる場合には、その事業會社に對する貸付に當るものとしては、別の形式のものを作らねばならぬ。すなはち、シンディケート若しくは共同融資といふやうな組合の形式に於て、甲銀行も自己に可能な程度に於て、資金を供出すると共に、乙銀行その他の銀行より餘融資金を聚め、これを一纏めにして供給するといふ方法によるものが最も適當なるものと考へられる。これが、これらの銀行の金融上に占むる地位が産む所

の、横の聯絡融資の形式である。

## 二

普通銀行團を構成する所の大銀行にあつては、それに遊資がありとすれば、今日の我が國に於ける手形交換機構に於ては、自然に、日本銀行に於ける預金となる關係にある。

信託會社、生命保險會社、證券會社、ビルブローカー、無盡會社、貯蓄銀行、地方銀行などにありては、當面に適當なる投資の途を見出し得ない資金が出来るならば、それは、その取引の銀行に預け入れられる。産業組合、商業組合、工業組合などにありても亦同様な處置をとるものもある。そして、それは概ね前述の大銀行へ預け入れられるのである。然るに、これらの大銀行は、そこに遊資が出来たとしても、これを他の大銀行に預け入れるといふことは、前述の如く、その矜恃の許さざる所であるから、これを預け入るべき所ありとすれば、日本銀行の外にはない。すなはち、これらの大銀行は、兌換銀行券や、補助貨幣や、臨時通貨の如き現金が、その手許に多く集りて、翌日の現金支拂に必要とする額を超過するならば、それだけは、これを日本銀行に預け入れるのである。また現金以外の、例へば、小切手、手形、配當領收書、利札、その他書面の形式を以て振込まれたる資金は、今日の手形交換機構に於ては、これらの書面の形式を以て支拂の請求を受けたる資金と相殺して、それに餘剰があれば交換決済として、日本銀行の預金となる關係になつて居る。ゆゑに、これらの銀行の遊資は、現金通貨の形に於て入つて來たものでも、または、預金通貨の形に於て入つて來たものでも、遊資たる限りは、日本銀行の預け金となるのである。このことは、一つの銀行について言つてもそうであるし、銀行全體について言つてもそうであるし、また金融界全體について言つても結局はそうなのである。

例へば、信託會社に於て遊資が出来るならば、それを取引の銀行に預け入れるであらう。この場合、その遊資は、話を解り易くするために現金であるとすると、この現金を受け入れた銀行が——預金支拂準備としての手許資金として必要がないならば、(その必要があれば遊資とは言へない)——これを適當なる貸付の途に向けるであらう。若し貸付に向ける途を見出し得ないならば、それが日本銀行の預ケ金となることは言ふまでもない。それが貸付に向けられたる場合に於ては、その借受人は、直ちにこれを支拂に充てるのであり、——彼は、當面に支拂の必要があればこそ、それを借り受けるのである——彼より支拂を受けたるものは、併し、必ずしも同時に支拂の必要がある譯ではないから、これを取引銀行に預け入れるに相違ない。然るときは、その銀行は、前の銀行と全く同じ立場に立つこととなる。若し銀行が貸付の途を見出し得ないならば、公社債株式等の有價證券に投資するかも知れない。然るときは、公社債株式の發行會社(發行應募の場合)の取引銀行の預金となるか、然らざれば、その賣手(市場に於て買入れたる場合)の取引銀行の預金となる。この場合に於ては、この銀行が前の銀行と全く同じ立場に立つこととなる。かくて、この現金が、貸付投資と預金とを循環して居る間は、それは遊資ではない。然し貸付も投資も適當なる途が見出し得ないならば、日本銀行の預ケ金となるの外はない。——この場合に於て、貸付投資と預金とが一回轉する毎に、預金の支拂準備額だけは、その銀行の手許に留保せられる。従つて、この回轉は無限に續くものではない。更に、この資金が、國債の發行に應募し、若しくは日本銀行より國債を買入れたるときは、貸出投資と預金との回轉はその時を以て止まり、資金は、應募の場合には國家の資金となり、買入の場合には消滅する——。

併し、現金が、かくの如くに用ゐられるといふことは、全くの假定である。纏りたる金額の資金取引は、概ね

手形小切手を以て行はれるを常とする。ゆゑに、銀行は、手許必要額を越ゆる所の現金は、必ず直ちに日本銀行に預け入れる。このときを以て、この資金は、日本銀行に於ける預ケ金の形となる、——すなはち、日本銀行の勘定に於ては、兌換券發行高の減少であり、一般預金の増加である——。現金の形に於て纏りたる資金が、日本銀行に預け入れられたる後は、その資金が、銀行によりて貸出投資に充てらるゝ場合には、概ね手形小切手を以てせられるのであるから、今日の手形交換機構の下にありては、常に、この一般預金が動かさるゝ形に於て、資金が移動することとなるのである。(この關係は次の段に詳細に述べる)。そして、その貸出投資といふことが、前述の如くに、貸出投資と預金との循環回轉を惹き起すこととなり、その一回轉毎に、一つの銀行の日本銀行に於ける預ケ金が、他の銀行の預ケ金に振替へられるのである。ゆゑに、銀行が、その資金について、貸出投資の途を見出す限りは、この一般預金は振替移動を續けるのであり、その途を見出すことが出來ずして、遊資となりたるときは、靜止状態となるのである。

右は遊資として説明したのであるが、凡そ銀行の資金は、それが、實質的なる増加をなす場合には、日本銀行に於ける預ケ金の形に於て増加するのである。資金の實質的增加といふは、曩に述べたる資金の四つの發生態様——商品的金の貨幣的金となること、海外資金の流入、國家の創作、中央銀行の創作、(後二者は、民間資金としては、實質的增加である)——による發生である。これらの場合に於て、金融界が健全であるならば、その資金は、日本銀行の預ケ金となる。然らざれば、兌換券の形に於て、流通界に滯留する。

例へば、今日、我が政府は、公債を日本銀行の引受けにて發行するのであるが、その場合に於ては、發行と同時に、政府が獲得する資金は、日本銀行の政府預金の形に於て發生するのであり、政府がこの資金を支拂に充つ



るときには、政府預金が、一般預金に振替へられるのである、——政府小切手の受領者が取引銀行にその小切手を預け入れることによつて——。爾後この資金が、民間にありて、手形小切手を以て支拂に充てらるゝ限り、預金者の預金が市中銀行の間を振替へによつて轉々移動すると共に、同時に一般預金が、市中銀行の間に振替によつて轉々移動さるゝのである。

もしも、預金者が、この政府支拂資金を支拂に充てないならば、銀行は、この資金を貸出投資に用ゐるのである。つて——實際に於ては、多數の銀行がかやうな資金の預け入れを殆ど同時に受け入れるのであり、他方に於ては、その預金者が、多數に同時にこれを支拂ひに充てるのであるから、後に述ぶる金融機轉によつて、銀行が貸出投資に用ゐ得るのは、預金者が、その預金たる資金を引出さないことを必要とするのではなく、その引出をなしても、尙ほ銀行は、これを貸出投資に用ゐ得るのである——。それが貸出投資と預金とを循環的に回轉する限り、前述の如く一般預金は振替移動をなすのであり、この回轉が停止するときは、一般預金は靜止するのである。

預金者が、かくて預け入れたる預金の中より、現金を引出すならば、一般預金は減少して、兌換券の發行高は増加する。併し、この現金は、生活費に充てらるゝか、給料勞賃として支拂はるゝか（それはまた生活費に充てられる）のいづれかであるから、小賣取引に用ゐらるゝのであり、それは——インフレの傾向に轉ぜざる限り——小賣商人によりて直接に、または卸賣商人または生産者を経て、銀行に預け入れられる。そして、一般預金の前の減少は恢復することゝなる。ゆゑに、金融界が健全なる限り、政府が公債によつて、日本銀行に於て、調達したる資金は、實質的資金として民間の金融界を一循したる後、公債發行の際に政府預金となりたる額と同額に於て、一般預金となるのである。

かくの如くであるから、今日の状態に於ては、政府の支拂が繼續する限り、一般預金は増加の一途を辿るのみである。普通銀行特に大銀行は常に巨額の遊資をもたざるを得ない筈である。この遊資は、これを日本銀行に集めるために、何等の統制を加へる必要はない。普通銀行に増加する資金は、自動的に、日本銀行に於ける一般預金となつて増加するの外はないのである。然るに、一般預金が、現實には何等の増加を示さないのは何故であるか？

それは、日本銀行が、手持の國債を賣却するからである。今日、國債の消化は絶対に必要である。ゆゑに、國債は、日々、銀行を初め、各種の金融機關及び會社・個人もこれが買受けをなしつゝある。そして、銀行がこれを買受ける場合は勿論のこと、その他の金融機關及び會社・個人が、これを買受ける場合に於ても、現金を以てこれに充てないならば、日本銀行に於ける一般預金の減少を來すのである。例へば、保險會社が、これを買受ける場合に於て、その取引銀行の小切手を日本銀行に支拂へば、その銀行の日本銀行に於ける預け金は減少することゝなるからである。

一般預金は、政府の支拂と共に、日々増加しつゝある。それは事實である。すなはち、水は日々流れ込んで居るのである。併し、國債が日々消化されつゝある。水は溜る暇もなく、他方に流出しつゝあるのである。それゆゑに、一般預金は、累増の傾向を示さないものである。そして、我が金融財政の健全さを示して居るのである。

普通銀行特に大銀行の統制を論ずるためには、これらの大銀行の機能について尙ほ二三述べなければならぬものがある。次の機會にこれを述べるであらう。